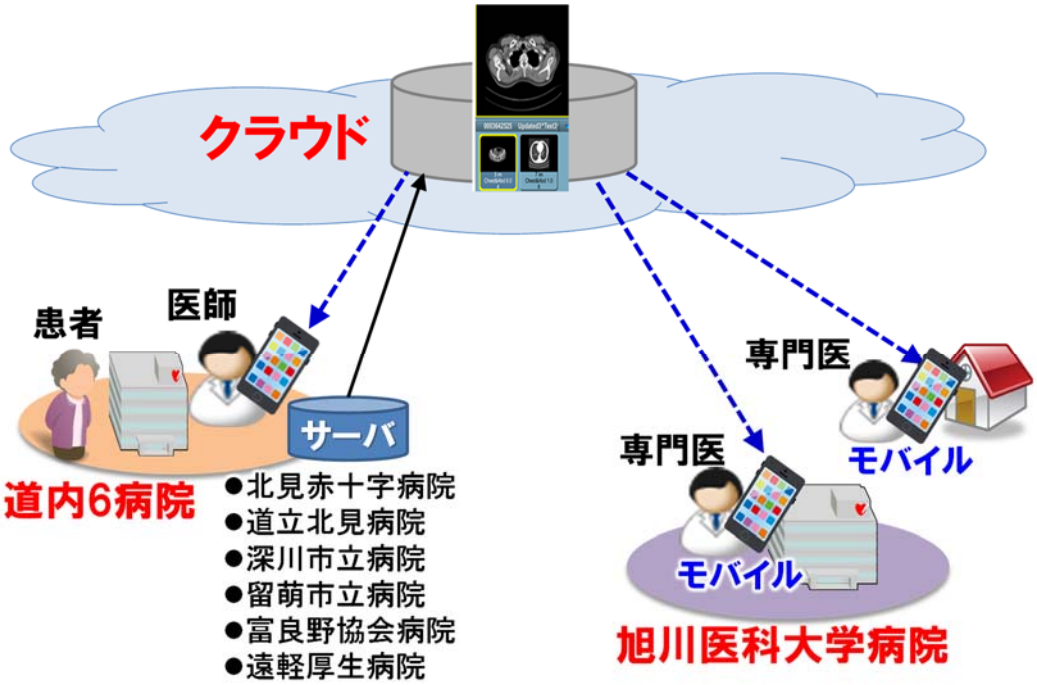
「クラウド医療」とは

北海道内の 6 病院（北見赤十字病院、道立北見病院、遠軽厚生病院、富良野協会病院、深川市立病院、留萌市立病院）からインターネット上のクラウドに送られてきた患者情報（主に画像情報）を本学の専門医がモバイル端末（スマートフォンやタブレット端末）で閲覧し、診断や治療方針のアドバイス、当院への救急搬送の必要性有無の判断などを行うものです。

「クラウド医療」を開始してから僅か 3 ヵ月間で、医療スタッフ間におけるコミュニケーションの活発化によって院内の業務効率が改善し、さらに、急性疾患が発症してから治療開始までの時間が最大で 1/3 まで短縮するなどの大きな効果を得ることができました。そこで、この成果をニューヨークから世界へ発信（2016 年）するとともに、この運用を更に加速させるため、国立大学としては初めて、研修医を含む全医師にスマートフォンを配付しました。



※ 「クラウド医療」は、2016 年に総務省が実施した「モバイル端末やクラウド技術を活用した医療分野におけるセキュアな情報連携モデルの実現に向けた調査研究」の一環として開始したものです。

※ 「緊急を要する血管疾患に対する“クラウド型”遠隔医療の確立」の功績が認められ、本学外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）・副病院長の東信良教授が「令和元年度　北海道科学技術賞」を受賞しました。